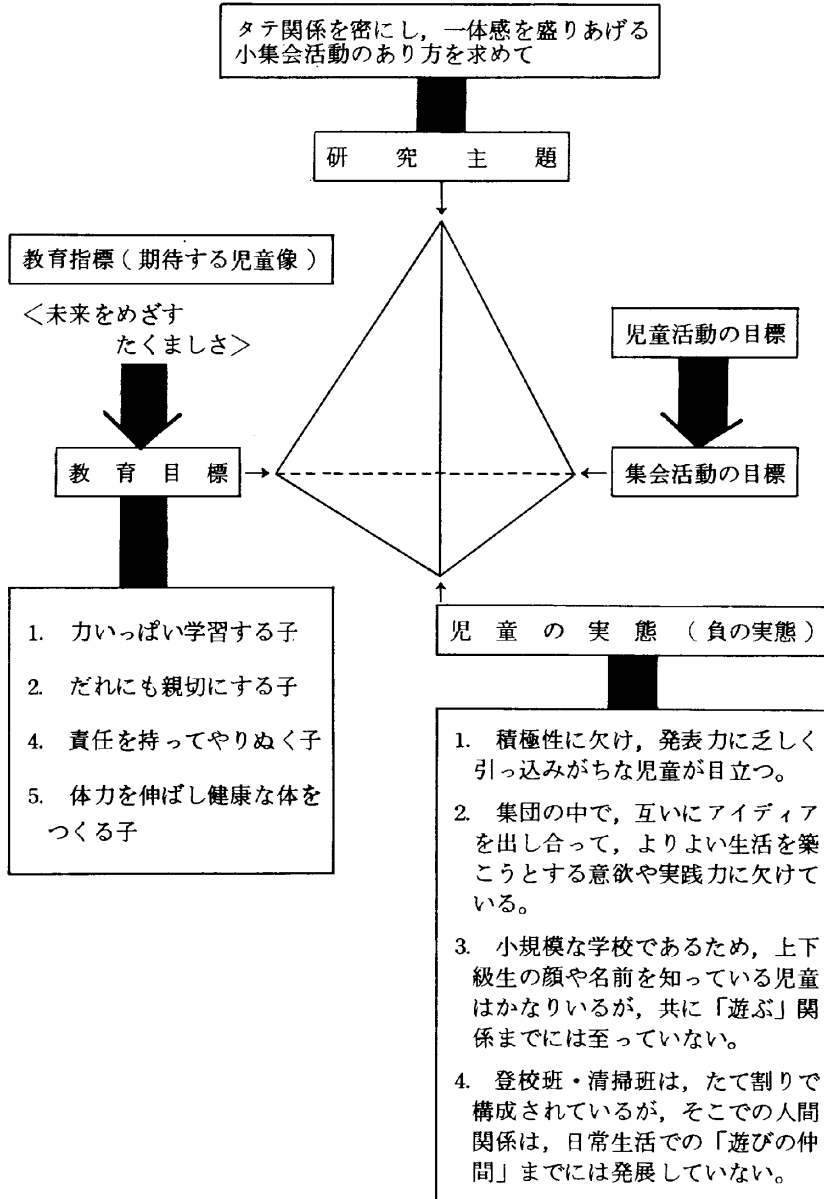


タテ関係を密にし、一体感をもちあげる
 小集会活動のあり方を求めて
 —— 特に、レクリエーション的なものを中心として ——

足利市立梁田小学校 特活研究部

1. 研究主題設定の理由



児童会活動における集会活動は、児童の学校における生活が、より楽しいものとなり、あわせて生活そのものが向上することを意図して計画されるものであると考える。

さらに、個々の児童にとって、学校という小集団の枠を出て、他の集団に所属し、そこで新しい仲間との連帯感を深める活動の場であり、自らを生かすための意欲や自覚を高める場と考える。

児童会活動における集会活動のねらいを上記のような意味あいとしてとらえ、このことをデルタの頂点とし、他の二点に本校の教育目標と児童の実態を置き、これを底面とした三角錐上に研究のねらいを求めた。この構造的把握の結果、本主題の設定をみたわけである。

なお、「タテ関係」と「レクリエーション的なもの」（遊びやゲーム）を重視した意図は、近年子供達の近隣異年令集団（タテ型集団）の崩壊とこれに伴う「遊び文化」を中心とした児童文化の継承が希薄になった点に注目したためである。

以上が、「タテ関係を密にした集団遊び——レクリエーション的なもの」を核とした具体的活動を想定した研究主題である。

2 研究の仮説

- (1) タテ関係を重視することによって、次の点が増われるであろう。
 - 上級生の下級生に対する思いやりの心、いたわりの心が芽生える。
 - 下級生は、上級生の思いやり、いたわりの心を受けとめ、さらに上級生の責任ある行動を見聞し、深い敬意を抱く。
- (2) レクリエーション的なもの（遊びやゲーム）を中心とした活動を通して、次のような点が増われると考える。
 - 上級生は下級生を、下級生は上級生を、また、同学年の仲間を意識し、多少の苦しさや欲求に耐え、その調整ができるようになる。
 - 各自の役割分担をはたすことによって、遊びやゲームは楽しくなることを体得し、その中から責任をはたすことの大切さを知る。
 - 遊びやゲームには、一種のルールがつきものである。このルールを厳守することにより遊びやゲームが成立する。そういった体験を通すことによって、規則を尊重する態度が身についてくる。
 - 他のグループと対抗して遊びやゲームをすることにより、自分の所属するグループへの所属感が増大し、集団としての意識が芽生える。
 - 異年令集団内での自己を自覚し、一つの目的に向かって集団として、相互に助け合って活動することを通し、社会的自我が確立される。

3. 学校運営の基本構造と集会活動の位置

32 基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける

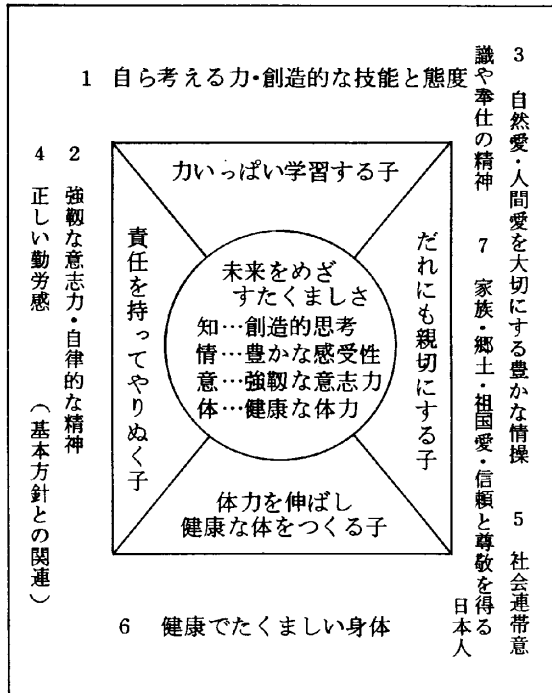
38 59

困難にくじけずねばり強くやりとげる態度を身につける
 家族が互いに尊重し合い明るい家庭生活ができる

(市の教育目標との関連)

- ◎学校がんばり(漢字・計算・音楽・陸上・ボール・器械・水泳)
- ◎問題意識を持った学習態度(予備学習) ◎語彙指導 ○写生会
- 学芸会 ○図書館利用 ○読書会 ○夏休み作品展 **◎集会活動**
- 対外的コンクール参加 ○書きぞめ展 ○校内一斉テスト(漢字・計算)

- ◎菊の一鉢栽培 ○学級園の手入れ ○動物の飼育 ◎たてわり清掃
- ◎だまって作業 ○委員会の常時活動 ○除草分担(具現化を意図した活動)



- ◎早朝マラソン ◎虫歯の完全治療 ◎林間学校 ○集団行動
- スポーツテスト ○水泳記録会 ○持久走大会 ○業間運動
- 手洗い励行 ○なわとび大会 ○体操記録会 ○陸上記録会
- 健康診断

4 いろいろな運動を楽しみ、体力を身につける

9 24

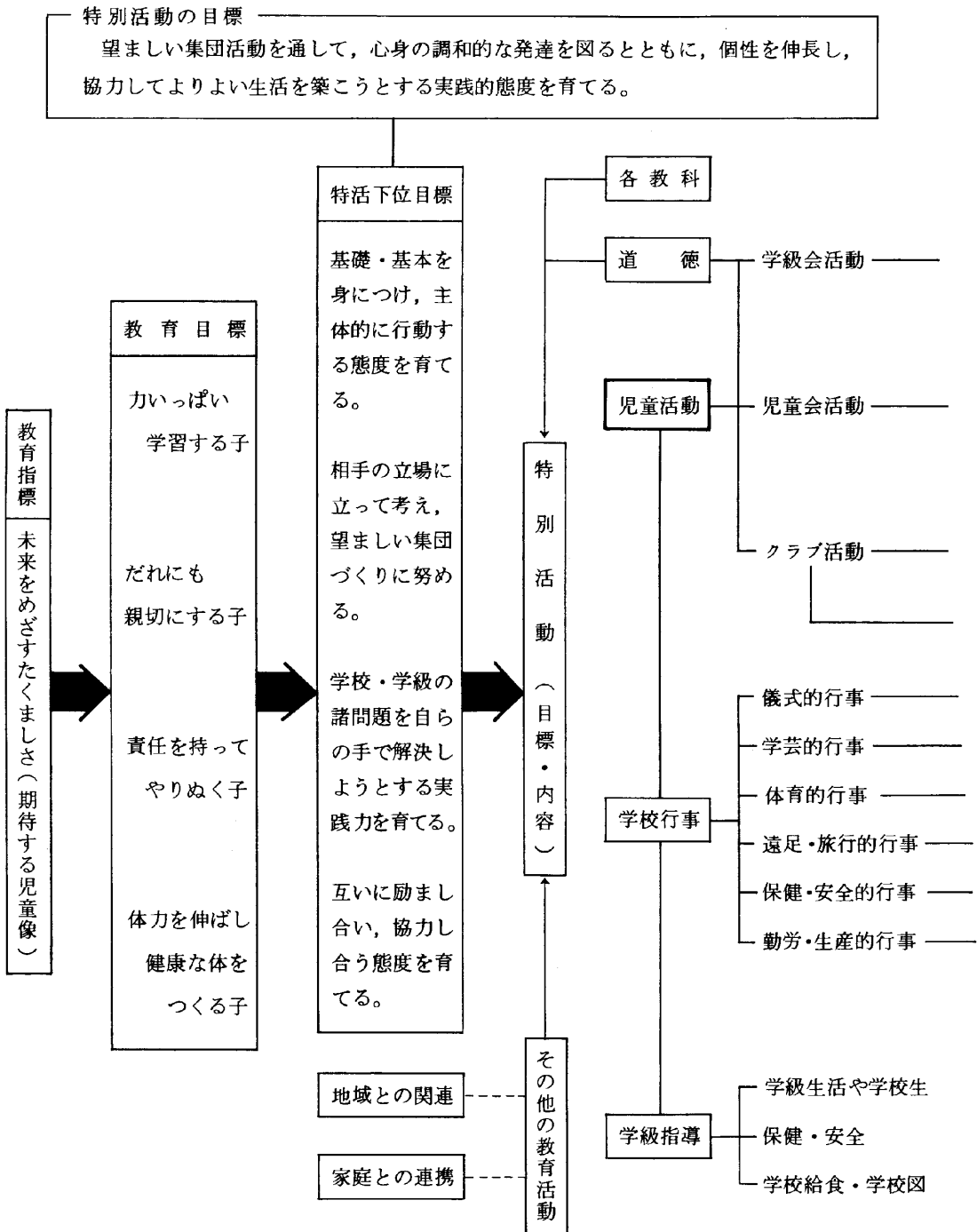
道徳的な態度を身につけ実践することができる
 郷土の自然や文化に親しみ、その保護・発展に努める

30

奉仕活動の大切さを理解し積極的にその活動に参加する
 32 敬老の精神を身につけ実践する

- ◎小さな親切運動 ◎クリン梁田 ○横断歩道での会釈励行 ◎あいさつ通り
- ◎やなだの木 ◎林間学校 ◎青空遠足 ○集団登下校 ○敬老募金 **◎集会活動**

4. 特別活動全体計画



話し合い活動
係活動
集会活動

よりよい学級生活をめざして、日常生じる学級の諸問題に気づき、話し合い、協力し、その解決を図るとともに、学級内の仕事を分担処理する。また、学級の和を深めるため、楽しい集会を計画し実施する。

代表委員会
プログラム委員会

学校生活を向上発展させようという自覚を持ち、学校生活上の諸問題に気づき、それらを自主的に解決していく。

各委員会活動
(長・短の集会活動)

学校生活を楽しいものにするため、集団の一員として、自己を正しく生かし、タテ・ヨコの関係の中で協力し合い、助け合って創意ある集会を実施する。

学年・学級の枠を越えた同好の志と、共通の興味・関心を追求する活動を通して、個性の伸長を図る。

- 入学式・始終饗業式・卒業式等
- 学芸会・創立記念写生会等
- こいのぼり運動会・秋季大運動会等
- 修学旅行・春の遠足・青空遠足等
- 定期健康診断・避難訓練等
- 除草・大掃除等

各種行事に対し、積極的に参加させ、児童として可能な範囲で行事にかかわる仕事の分担を与え、参加意識を高揚する。

日常の学習成果の総合的な発表の場を通し、学校生活を明るく豊かなものとする。

集団の一員としての自覚を深めさせるとともに、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

活への適応
書館の利用

学校という集団内に好ましい人間関係を育てることを第一義的目標とし、日常生活を営むために必要な行動の仕方や、集団の中で、自己を正しく生かすことができるなど、実際に生きて働く知識、態度、習慣などが確実に身につくことを目指す。

5. 集会活動の実際

昭和58年6月10日(金)

Aブロック班

1. 集 会 名 ひょうたんおに

2. 指導の方針

児童たちは、これまでの集会活動等を通して、班の一員としての自覚を深めつつあるように思われる。この班への所属感を一層密にするために、班の全員が一緒にするゲームをさせることも有効な方法ではないだろうか。

そこで、班を単位とした話し合いをさせて、児童たちの希望するゲームを調べたところ、様々な希望が出された。その中から比較的希望する者が多かったもの、最近実施していないもの、校庭の広さ、人数等から検討させたところ「ひょうたんおに」がよいだらうと言うことになった。

また、児童会広報紙「ひろば」や校内放送などによって、事前の予告をさせることにより集会への参加意欲を高めさせようと考えた。

3. 活動過程と本時の位置

回	月・日	指導の場	活 動 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1	5. 16	放 課 後	実施計画原案作成 (集会委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ブロック別集会の内容決定までの過程及び方法について話し合わせる。
2	5. 27	随 時	ゲームの内容の希望をとる (班)	<ul style="list-style-type: none"> 班長か班員から希望をとるようにさせる。 あらかじめ担任が児童に考えておくように話しておく。
3	5. 28	業 間 時	各班の希望をまとめる (ブロック別班長会議)	
4	5. 28	4 校 時	実施計画作成 (集会委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 集会内容を決定させたのち実施計画を立てさせる。
5	6. 4	業 間 時	活動内容伝達 (班長会議)	<ul style="list-style-type: none"> 集会委員会から班長へ集会の内容を知らせる。

6	6. 6	随 時	活動内容の伝達	<ul style="list-style-type: none"> 「ひろば」及び校内放送を活用し、全児童に集会の内容を知らせる。
7	6. 9	放 課 後	集会の準備 (集会委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ひょうたんを書かせたり、これまでの準備の確認をする。
8	6. 10 (本時)	5 校 時	ひょうたんおに (ブロック別集会)	

4. 本時の実施計画

(1) 本時の指導のねらい

- ① ひょうたんおにを班員とともにする中で、下級生を助けながら楽しむことができるようにさせる。(主に上学年児童)
- ② 上級生の助けを貸りながらも、ひょうたんおにの楽しさを味わうことができるようにさせる。(主に下学年児童)
- ③ 班及びブロックを単位とした集団の中での規律ある行動に心がける。

(2) 実施計画

時間	予 定	やり方と注意すること
(分)	入場 整列	<p style="text-align: center;">ブロック別の位置</p> <p style="text-align: center;">◎は進行係台 ○は班長 各班は2列に並ぶ。</p> <p style="text-align: center;">◎ 班長は班旗を持っていく。</p>

3	始めの言葉を言う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集会委員
	今月の歌を歌う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞を書いたものを見せる。 ○ 伴奏は、オルガン(ピアノ)とする。 ○ 指揮は、集会委員がする。
1	代表あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集会委員
1	ゲームの説明をする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集会委員
8	ゲームをする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1つのひょうたんに2人のおにを決めておく。 ○ おににさわられた人は、おにになり、赤帽子になる。
2	先生の話聞く	
3	児童会の歌を歌う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伴奏は、今月の歌と同じ。
	終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集会委員
	退場	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに、きちんと並んで退場する。
反省		

(3) 実施上の留意点

予 定	指 導 上 の 留 意 点
入場、整列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当班の指導にあたり、すばやく、しかも整然と整列ができるようにする。
始めの言葉	
今月の歌	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌う姿勢を守らせる。 ○ 担当班の後方で児童とともにうたう。
代表あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 代表者の目を見ながら、黙って聞かせるようにさせる。
ゲームの説明	

ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当班とともにゲームをする。その際、審判の授助をしたり下級生への助言をしたりする。 ○ ルールの徹底に心がける。 ○ ゲーム終了後は、ただちに始めの隊型に整列させる。
先生の話	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集会の評価として、集会に対する満足感を味わせるとともに、今後の集会への活動意欲を持たせるような内容にする。
児童会の歌	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今月の歌と同じ
終わりの歌	
退 場	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに整列させた後、行進で退場させる。
<評価・メモ>	

実践の概要

(1) 会場の様子

ブロック別に班旗が半円形の線上に並べられており、同様にひょうたん鬼のひょうたんの線が二つずつ書かれている。

(2) 整列隊形への集合

青空集会の集合の行進曲が流れると、児童は、自分の班の班旗を目ざして行進して来る。班長は、先頭に立ち一年生から順番に二列に整列をさせる。

係りの児童は、進行台の横に整列し、進行係は、進行台のすぐとなりに位置し整列のための号令をかける。

(3) 活動の実際

- ① 集会委員による始めの言葉で開会。
- ② 今月の歌は、「おはよう 行進 さようなら」。この歌は、輪唱のため、指揮者からブロックを二つに分けて歌うよう指示がある。全員で歌う。
- ③ 集会委員の代表が、きょうのゲームにおいて、高学年児童は、低学年児童を助ける。低学年児童は一生懸命やろうというねらいについて話す。
- ④ ゲームのやり方…………… ○ 鬼がひょうたんの外から中の人をつかまえる。

- つかまえられたら、帽子を赤にして外へ出る。
- 外に出た人は、中の人をつかまえる。

- ゲームのきまり……………
- 中の方は線から出ない。
 - 外の方は線から入らない。

- 場 所……………
- 二つのひょうたんのどちらかでやる。
- 以上の三点について説明がある。

- ⑤ ブロック内を二つに分けて、「ひょうたん鬼」を二回行う。
- ⑥ 一度も鬼につかまらなかった児童を進行台にのせ賞賛する。

本時のねらい 「高学年は低学年児童を助けよう」については守れなかったが、それはゲームに熱心なあまりのことであろうという本時の集会の評価、きょうの集会のための集会委員の働きに対する賞賛という内容の教師からの話。

- ⑦ 児童会の歌をうたう。
- ⑧ 集会委員の終わりの言葉で閉会。
- ⑨ 班ごとに入場と同じ行進曲に合わせて退場する。

(4) 全体の考察

- ① アンケートの結果 ( 楽しい  ふつう  つまらない)

低学年	男	76	22	2
	女	79	18	3
中学年	男	51	44	5
	女	74	23	3
高学年	男	30	59	11
	女	31	69	

(5) 考 察

「楽しい」において、中学年の男女差が見られる以外は、学年内での男女差は小さい。しかし、中学年の女子を除くと、高学年に行くに従って「楽しい」の数が減っている。

このゲームは、ひょうたんの中にいる子をひょうたん外の鬼がつかまえるという単純なゲームだったために低学年向きのゲームと言えよう。

- 集会活動の年間計画を見直し、より一層、児童にとって「楽しい」集会にしたいが、児童の希望を重視するだけでは困難が予想される。そのために、ゲームに関する参考図書の利用や昔から伝わる「遊び」の開発などが考えられるが、そのほかに、効果的な方法はないだろうか。
- 研究組織について、ブロック間の連絡のあり方や集会担当などを改善していく必要があるのではないだろうか。
- 「青空集会」の時間以外でも、上下級生の縦の関係を深めるためには、どのような手だてが必要だろうか。
- 集会活動をより円滑に進めるために、縦割り班の人数は、どの程度にしたらよいだろうか。

評

特別活動における集会活動は近年ますます重視されてきているところであります。しかしながら、現状では、教師の理念や理想が先行し子供達自身の主体的参加が二の次になったり、逆に、ただやらせておけばよいという無目的な活動におちいりやすいという問題を抱えており、特活の中でなくてはならないものでありながらなかなか計画的に実施されておられません。このような時、梁田小学校では、学校の教育指標である未来をめざすたくましさに関連づけ、一貫した全体構想のもとに全校あげて、実践を通して研究されたことは大きな意義があります。なかでも「タテ関係」と「レクリエーション的なもの」を重視されたことは、本校だけの課題でなく、現在小規模扱をはじめとしてどこかの学校でも当面している課題でもあり、まさに時期を得た研究でありましょう。この研究は、昨年度の足利地区小学校教科外研究会に発表をいただいたところですが、今回、その研究実践の一端を具体的に紹介していただきましたことは、足利の特別活動におけるこの面の推進に大いに参考になると考えます。この研究が、今後日々の実践の積み上げによってより確かなものになるよう期待すると共に、「タテ関係」の発展として将来小中学校間の共同研究が、特別活動分野でされるよう願っております。